

知的環境とセンシングのシステムとソフトウェア論文特集の発行にあたって



知的環境とセンシングのシステムとソフトウェア論文特集編集委員会

委員長 東條 弘

実空間に存在する人やモノ、あるいは空間それ自体の状態をセンシングする機器同士のネットワークはセンサネットワークと呼ばれ、世界中で活発な研究が進められている。また、センサネットワークより得られたデータを処理・解析して、その人の活動を拡張・強化あるいは補完・補助する機能を知的環境 (Ambient Intelligence) と呼ぶ。これらセンサネットワークと知的環境を活用した情報通信システムは、従来にない利便性の提供や抜本的なコスト削減が期待できる。

これらの動向を踏まえ、知的環境とセンサネットワーク研専では、「知的環境とセンシングのシステムとソフトウェア」に関する論文特集を企画した。また実社会の課題解決に直接的につながる技術や上位レイヤ技術、ユーザスタディや実証実験等から得られた知見など、応用的・実際的な分野の特にシステム・ソフトウェア開発論文の投稿を募るべく、関係各位に幅広く働きかけた。

結果投稿された論文数は、論文8編、レター2編であり、これまでと比べ数多くのシステムやソフトウェア開発に関する論文投稿が寄せられた。投稿された論文に対して厳正な査読ならびに、編集委員会での厳正なる審査の結果、最終的に計6編の論文、2編のレターが本特集に採択された。3編の招待論文を含め、本論

文特集の11編の論文・レターは、今後、知的環境とセンサネットワーク技術の進展に必要な最新技術の成果を論じているだけでなく、今後これらの分野の一層の社会基盤発展に大きく貢献するものと確信している。

最後に本特集の趣旨に沿って、システムとソフトウェア論文を御寄稿頂いた著者の方々、本特集として非常に相応しい招待論文を執筆頂いた著者の方々、大変御多忙の中、論文の編集、査読、校閲に御尽力頂いた編集幹事・編集委員の方々ならびに、本特集発行に伴い、多大な御支援を頂いた学会事務局の方々に深く御礼申し上げます。

本特集が更に今後も、システムやソフトウェア開発に関する論文を積極的に投稿できるきっかけとなれば幸いです。

とうじょう ひろし
東條 弘 (正員：シニア会員) 1991年長岡技術科学大学院修士課程了。同年、日本電信電話株式会社入社。1999年大阪大学大学院博士後期課程了。伝送網オペレーションシステム構成法、広域ユビキタスネットワークに関する研究・開発、映像コミュニケーション・高品質映像配信サービス開発・運営、ネットワーク仮想化技術、耐災害ICT技術の研究開発・実用化に従事。現在、NTT先端技術総合研究所。博士 (工博)。

知的環境とセンシングのシステムとソフトウェア論文特集編集委員会

委員長	東條 弘
幹事	塩川 茂樹・中澤 仁
委員	荒川 豊・石原 進・井上 創造・岩井 将行
	川喜田 佑介・岸野 泰恵・猿渡 俊介・下坂 正倫
	永田 智大・深津 時広・不破 泰・村尾 和哉
	山本 高至・米澤 拓郎